

パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房 60

特集

地域の特性を活かした景観づくりを進める
地域景観づくり協議会



まちづくり交流サロン — まちづくりのすべてがそこに —

このサロンは、ひと・まち交流館 京都 地下1階にある、まちづくり活動を行う団体・個人が交流していただける、オープンなスペースです。

利用時間 京都市景観・まちづくりセンターの開館時間に同じ

ミーティング中...



まちづくり活動をしているあなた！
さあ、まちづくり交流サロンへ

資料が見たい...

広報誌をつくりたい...

相談したい...

図書
コーナー

まちづくり関連の書籍や
発行物がたくさんあります

まちづくり
工房

印刷機 (有料)、紙折り機、
PCの貸し出しあり

まちづくり
なんでも相談

まちづくりに携わる職員が、
疑問・相談にお答えします

賛助会員
募集

年会費

個人1口 5,000円

団体1口 50,000円

(入会は随時受け付けています)

センターの活動の趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集し、会費は情報誌の発行やまちづくり活動の支援、京町家の保全、再生に向けた取り組みなどの事業に活用させていただきます。

- ニュースレター「京まち工房」送付 (季刊・年4回)
- セミナー等の御優待 参加人数を限定させていただいているセミナーの優先受付や参加費の割引をさせていただきます。

※ 寄付金は税制面での優遇がありますが、賛助会員会費は適用されません。

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階

TEL : 075-354-8701 FAX : 075-354-8704
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

開館時間

平日・土 9:00 ~ 21:30

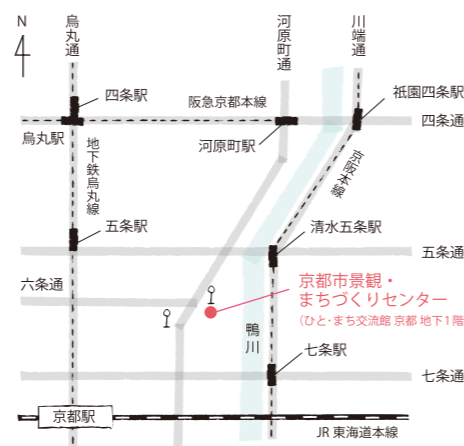
日・祝 9:00 ~ 17:00

休館日

毎月第3火曜日 (国民の祝日にあたるときは翌日)
年末年始 (12月29日 ~ 1月4日)

交通系統

バス 市バス 4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩 10分



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

マチ右衛門 Twitter



京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

景観・まちづくり大学

まちづくりイベント
京の四季を愉しむ会・夏

京町家事例
暮らしを考える中で行きついた「京町家」

まちづくり報告
西陣中央小学校区のまちづくり
町家美術館 風雷房 誕生!

コラム
就任ご挨拶
私と京都



<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

特集 地域景観づくり協議会

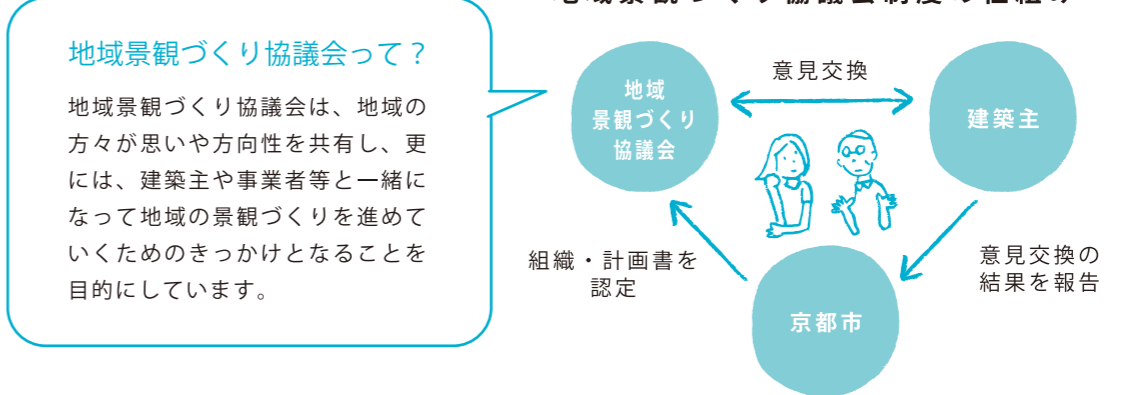
地域の特性を活かした景観づくりを進める



認定式の様子

今年6月1日、下京区修徳景観づくり協議会と中京区先斗町まちづくり協議会が、「地域景観づくり協議会」に認定されました。これらの地域で建築行為などを行う場合は、協議会との意見交換が義務付けられます。この制度を活用し、地域固有の景観づくりに取り組む2地域を紹介します。

地域景観づくり協議会制度の仕組み



事例 1 認定第1号 修徳景観づくり協議会

修徳学区では、まちづくり憲章を策定し、修徳らしい景観づくりに向けて、地域内で建築行為等がある場合は、建築主と町内会などが事前に話し合う場をもつ仕組みをつくりました。独自でスタートさせたこの仕組みについて、市から地域景観づくり協議会として認定を受けました。認定されたことを機として、活動フローの見直しや体制の強化をしながら再始動しています。今後、建築主との景観づくり相談会を実施する一方で、地域での対話の積み重ねから、「町」と「町組」の伝統により培われた地域コミュニティの底力が発揮され、この協議会の認定が、修徳らしい景観と住民の繋がりを創る後押しになることが期待されます。

修徳学区について

烏丸五条界わいという京都の都心部に位置し、力強い地域コミュニティの自治の伝統と、職住共存的な町並みや史跡などの歴史的資源を有する地域です。

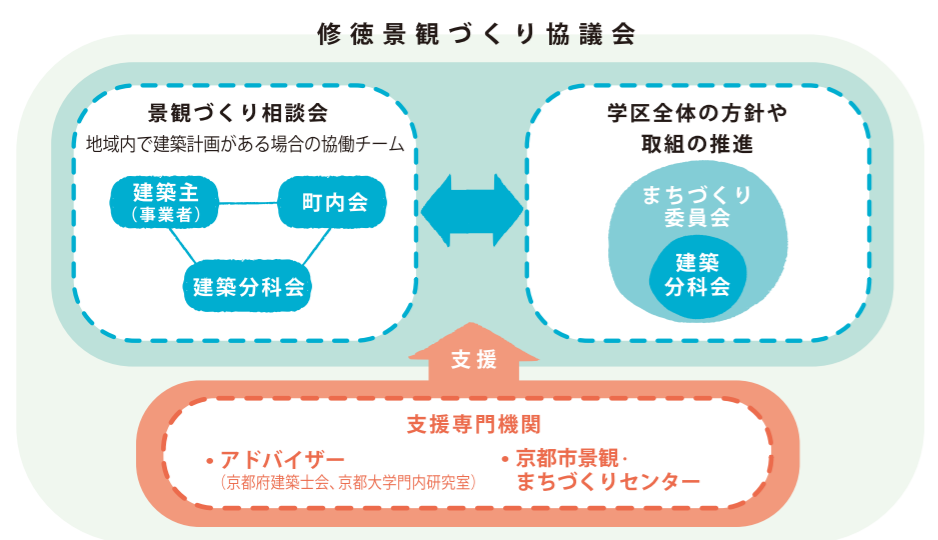
事例 2 先斗町まちづくり協議会

先斗町まちづくり協議会では、ワークショップやアンケート等により課題抽出を行い、これまでに路上喫煙や屋外広告物（看板）、ゴミ出しなどに関する町式目を順次策定し、運用してきました。町式目には、屋外広告物は先斗町の茶屋建築が生み出す町並みに馴染むようにすること、そのために道路上につきださないよう配慮すること等が定められています。この協議会が、市から地域景観づくり協議会の認定を受けることになりました。

先斗町について

北は三条通の一本南から、南は四条通までの南北約500m弱、東は鴨川、西は木屋町通に出るまでの区域にあり、南北の先斗町通とこれに接する路地に、茶屋建築や料理屋が軒を連ねる、花街としてその歴史を積み重ねてきた地域です。

景観づくり協議会における取組の推進体制



景観づくり協議会は、地域内の日常的な建築計画（建築行為）に際して話し合う協働チームによる景観づくり相談会の活動と、まちづくり委員会と連携して学区全体の方針づくりや取り組みを推進する活動の、2本立ての体制を進めます。（計画書より）

※ 修徳学区の取組については京まち工房51号参照

規制ではなく創造を

これまでの活動として、修徳まちづくり憲章第1部、第2部（町並み編、安全・安心編）の策定など、住民の意思を集約し文書化されました。条例の規制に頼るのではなく、まちづくり憲章推進会議、町並みのデザインワークショップを通して、話し合いながら「住民が創造する」という視点を大切にされています。これまでも、マンション建設の際、町内会に協力して、建築計画の協議や自治連合会や町内会への加入を推進してきました。今後は戸建ての新築や増改築の相談にも対応されます。

多種・多業種の方々の協働による活動

『「先斗町」の将来を考える集い』（平成21年11月～平成23年9月）を前身として、平成23年10月に先斗町まちづくり協議会を発足し、住民、お茶屋、飲食業等、先斗町に関わる多様な主体が集まり、活動を進められています。



先斗町らしい町並みを



先斗町の町並み

先斗町では、社会状況の変化に伴って、先斗町らしい風情や町並みが少しずつ消失してきました。それらに対して、1つ1つ解決していき、先斗町独自の町並み景観の保全・再生を図り、先斗町に関わる全ての人たちが、京都を代表する「花街先斗町」の風情を享受できることを目標に活動しておられます。この地域景観づくり協議会の認定を受けて、新規建築行為をされる場合や景観（特に、屋外広告物）に関して新規設置・改変の際に、事前協議を行うこととなります。先斗町独自の景観を形成していく上で、非常に有益な制度として機能していくことを目指しています。

※ 京町家まちづくりファンド 通り景観の修景として、（エアコン室外機カバー11件17台）平成23年度助成を行いました。（京まち工房58号参照）



景観・まちづくり大学は京都のまちづくりに関心のある人々が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つことを目的としています。

京のまちづくり史 セミナー

今年度は「なりわいと都市空間形成」をテーマに、個性と魅力にあふれた京都の町並みが地域の経済のあり方と密接に関わっていることを学びます。

第1回 7/23 (月) 開催 **講師** 高橋康夫氏
京のなりわいと空間形成 (花園大学教授、京都大学名誉教授)

京都の人々の生活や生業が平安京を基盤とした都市空間に与えた変化について、記録や絵画などを交えてお話いただきました。まずは、当初国により市が設けられましたが、10世紀半ばになると道に沿って民間の市が成立するようになったという話から始まりました。

次に織物業の話が紹介されました。まず、織手である官僚が集まる場にてはじまり、その後彼らの経済的自立とともに同業者が集まるようになりました。そして戦国時代には上京の小川に権力者が住み、さらに庶民信仰の寺があることから、

繁華街が形成され、その周辺に織物関係の集住地が形成されたそうです。その後応仁の乱を経て、京都には二つの織物集団(絹屋町と西陣)ができましたが、絹屋町では上京焼き討ちのあと、信長の命により、新在家織屋町に商工業者による計画型まちづくりが行われたということです。

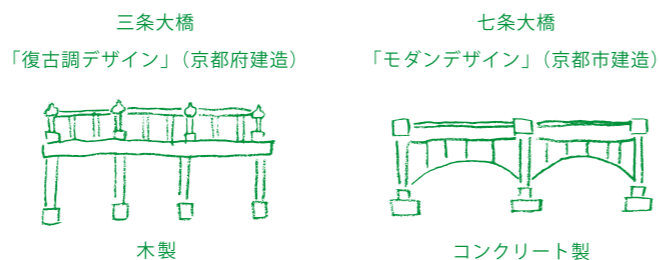
最後に、京都では、権門(社会的特権のある家柄や集団)、市場、地域社会の三者の関係で都市空間が形成されますが、京都に住み続けた人の思いは、市場や地域社会による営みから理解することができるということでした。

第2回 8/20 (月) 開催
京都の近代化と都市計画事業

講師 中川理氏 (京都工芸繊維大学教授)

天皇が東京に移ったあと、京都が近代都市への変化を模索する過程とそれに伴う都市基盤整備を中心とした話が展開されました。まずは、琵琶湖疏水を象徴とする工業都市化の為のインフラ整備、次に第四回内国勸業博覧会を契機に、平安京のある歴史都市を志向した京都御苑の整備や平安神宮の創建へと話は展開します。工業都市化がうまくいかなかったことが、結果的に既

存の地域社会を維持することになったそうです。また、明治以降「見た目」の景観が重視される中、新しい京都に相応しいデザインとして、鴨川に架けられた橋のデザインを例に、「府」は復古調、「市」はモダン調にしたことが紹介されました。このように明治の近代化の中で整備されたインフラでは、「見た目」の景観を重視したデザインが取り入れられたようです。



京町家再生セミナー

京町家の最初の一步としての基本講座です。

第1回 8/5 (日) 開催
大工さんに聞く、町家のキホン **協力** 京都府建築工業協同組合

今回は、よしやまの町家にて開催しました。模型を使いながら、京町家の構造の特徴などの説明を受けたあと、会場となった京町家を改修した住宅であるよしやまの町家と隣接する京都建築専門学校よしやま町家校舎の見学を行いました。最後の質疑応答では、町家に関わる内容に加えて、大工さんのお仕事に関する質問も多く出されました。



京町家 住まい方ラボ

京町家について、見て、聞いて、体験することで「住まいとしての京町家」への理解を深める、実践的な講座です。

第1回 7/29 (日) 開催
写真で切り撮る町家のある風景の魅力 **講師** 小針剛氏 (写真家、町家倶楽部)

町家の意匠、町家のある町並みの魅力をテーマとしたプログラムでした。講師の小針さん(写真家)から、町家見学のポイント、注意等の説明を受けたあと、会場の町家を見学しました。その後、参加者はデジタルカメラを用いて、町家内外の興味のある箇所を思い思いに撮影しました。その後、各自が撮影した写真を映写しました。映写した写真に対して講師から解説、撮影のアドバイスがあり、最後は講師自身が撮影した写真が披露されました。講師からの解説や他の参加者の切り撮る写真を通じて、町家の意匠の魅力についての新たな気づきがあったのではないのでしょうか。



町家所有者・居住者の集い

7/21 (土) 開催
町家で「適材適所」、木材の使い方を学ぶ
— さまざまな木材の個性と町家の「木遣い」 —

講師 中川典子氏 (関千本銘木商会 常務取締役)



町家所有者・居住者の集いは、町家を所有、あるいは居住している人同士が町家に関わる悩みや課題を共有し、経験や知恵を持ち寄り、また一緒に考える場です。今回は、町家を構成する素材の中心となる木材をテーマとして、木材を扱う専門家である銘木屋さんに出向きました。まずは銘木屋という仕事についての説明を受けたあと、倉庫で床柱、天井板などのさまざまな木材を見せていただきながら説明を受け、最後に意見交換を行いました。

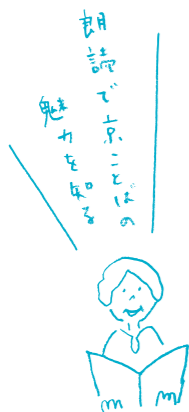


京の四季を愉しむ会・夏

京町家での暮らし体験を通じて、四季を通じた京町家の暮らしと文化を体感するプログラムです。このプログラムはNPO法人四条京町家との共催事業で実施しており、参加費の一部が京町家まちづくりファンドに寄付されます。

6/16 (土) 開催 京の夏暮らしと夏野菜

最初に、京ことばの会さんの「京の夏暮らし」に関する会話劇と京ことばに関する簡単なクイズを行いました。続いて、おばんざいを提供していただいた「鹿ヶ谷」さんから京野菜に関するお話を聞き、京の夏野菜をつかったおばんざいを楽しみました。食事のあとは、ふたたび京ことばの朗読を愉しました。



7/15 (日) 開催 祇園祭の話と鰻料理

祇園祭の最中に開催されたこともあり、満員になりました。まずは、「らくたび」の若村さんから「祇園祭のキホン」に関する話題提供の後、お食事を提供していただいた仕出し屋「あこや」さんの鰻料理を愉しました。



The Deepest Kyoto Tour 英語ガイド付きまちあるきツアー

The Deepest Kyoto Tourは、地元の方によるガイドさんと通訳さんとともに五条坂から宮川町などに立ち寄りながら、六原界わいをめぐるまちあるきです。この9月から新たなガイドさんも加わり、コースもリニューアルします。開催は毎月第2・4水曜日の午後です。なお、参加費の一部は京町家まちづくりファンドに寄付されます。

問い合わせ The Deepest Kyoto Tour実行委員会
<https://www.facebook.com/thedeepkyoto>

寄付拡大商品の募集

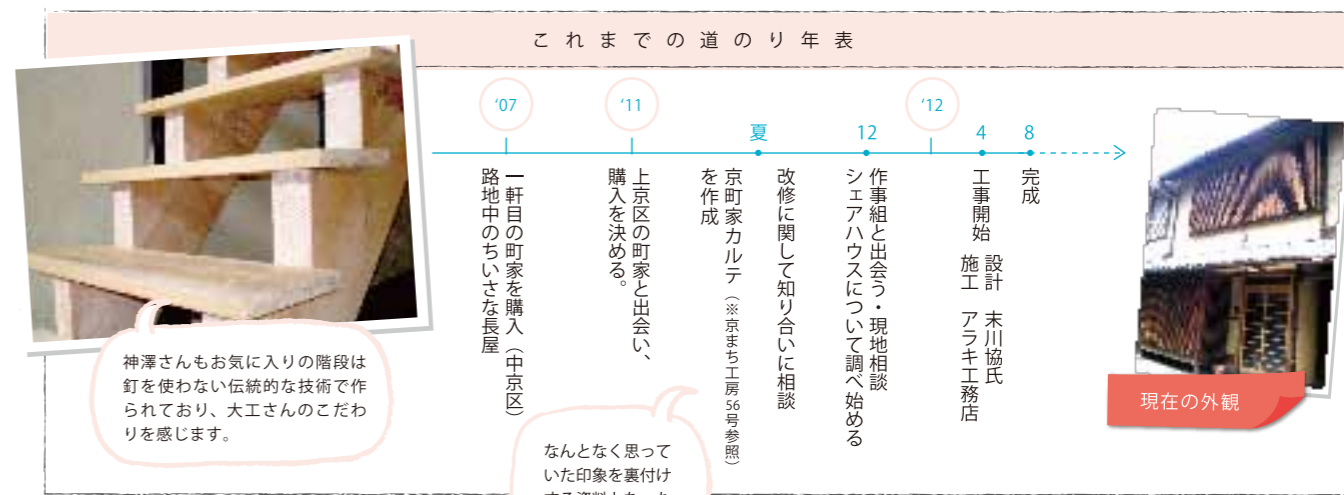
当センターでは、寄付つき商品の募集を行っています。公益財団法人化に伴い、寄付金は税制面での優遇があります。基金の拡大のために、是非とも御協力ください。

京町家まちづくりファンド寄付つき商品 コラボ企業
京都青果合同(株) / (株)ドール (株)井筒八ツ橋本舗 コカ・コーラ
ウェスト(株) / (株)伊藤園 / キリンビバレッジ(株) 光村推古書院



文 = 杉崎和久

暮らしを考える中で 行きついた「京町家」



神澤さんもお気に入りの階段は釘を使わない伝統的な技術で作られており、大工さんのこだわりを感じます。

なんとなく思っていた印象を裏付ける資料となったそう。

東京から京都へ

東京ではおうちに関して「セキュリティ」をととても気にしていたという神澤さん。セキュリティ重視でオートロックのマンションに住んでいたところ、ふと気づくと隣人がどんな人もわからない暮らし。システムが完備されているだけでは安心は得られない気がしたそうです。それよりも人の目が行き届く方がよいのではないかと、感じコミュニティに興味を持ち始められたところ、たまたま京都によく訪れるようになり、次第に自然志向になっていたという、様々な状況が重なり、1軒の町家を衝動的に購入されました。

当時は、京都の町家に住もう！という一大決心の元に購入されたわけではなく、場所的にも売却しやすいところだったので、売ることも考えてのお買い物だったそうです。

2軒目の町家・改修の体験

1軒目の町家はセカンドハウスとして利用されていましたが、住んでみると相性が良かったそうです。こういうところに住みたいという気持ちが高まってきたのですが、移住してくるには少々手狭。住むためのもう少し広い家求めたところ、今のおうちに出会われました。しばらく空き家だったので改修は必要だとは思っていたのですが、長屋であることや、ところどころ傷みもあったことで少々不安もあり、誰かに「大丈夫」と言ってもらいたかったところ、人伝に相談した作業組の末川氏がまさにその言葉をかけて下さったことで改修をお願いすることにされたということです。改修中は壁こそぎ、木舞編み、土間たたきの工程を大工さんに教えてもらいながら体験されました。



あちらこちらにお母様の絵画の作品が飾られています。

シェアハウスという活用法



元々複数の人と一緒に住む暮らしを望んでいたところ、「シェアハウス」という活用法に出会い、今後は中高年層のシェアハウスとして活用していこうと計画だそうです。

取材の日は、ご町内の地蔵盆の日だったこともあり、改修途中すでにご近所づきあいをはじめられている姿も目にしました。これから多くの人と交流のある暮らしを実現されていくことを感じました。

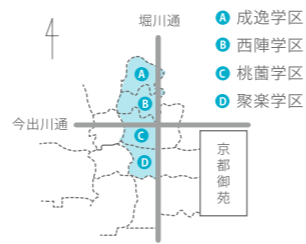
文 = 高木良枝

西陣中央小学校区のまちづくり

「西陣町おこしの会」が始動しました！

平成24年2月、上京区の「成逸学区」「西陣学区」「桃菌学区」「聚楽学区」が力をあわせてまちづくり活動をする「西陣町おこしの会」が発足しました。

小学校の統廃合により、平成7年に西陣学区、桃菌学区の校区が統合し、平成9年に成逸学区、聚楽学区の校区も追加統合する形で西陣中央小学校ができ、新しいコミュニティが生まれました。従来、どの学区もコミュニティの強固な地域でしたが、高齢化や住民の入れ替わりなどの社会の変化により、新たな課題を抱えるようになりました。そんな折に、小学校の統廃合があり、これまでの学区ごとのまちづくりから、4つの学区が知恵を集結させる広域コミュニティのまちづくりへ発展することになりました。



西陣町おこしの会が抱える3つの課題

- 1 千両ヶ辻の無電柱化 (桃菌学区)**
江戸時代に西陣織機業で一日に千両の商いがあったといわれる場所
- 2 堀川商店街の再開発 (聚楽学区)**
シャッター街になりつつある商店街
- 3 元西陣小学校の跡地について (西陣学区)**
上京区総合庁舎の仮庁舎として利用される跡地



西陣の朝市 — マルシェ —

取組の手始めに、まず「西陣の朝市 — マルシェー」を4月から開催しはじめました。かつてたくさん立っていた「市」は地域の活気を反映する場でした。そのような市を現在に復活させ、たくさんの地域住民が集まれる場作りを目指しています。市が活気づくことで、子供から高齢者まで幅広い層の住人の方々が参加できることもあり、住民同士の交流の場にもなると考えられています。

西陣町おこしの会の取組は始まったばかりですが、1つの学区だけではやりきれないことも、学区同士が協力することで大きな力に変えていくという、新しい発想の中で課題解決に向かっていくことと思います。西陣地域に住んでいる方をはじめとして、是非西陣の朝市に足を運んでみてください。

西陣の朝市
— マルシェ —

次回 11/10 (土)
午前9時～午後1時
場所 西陣児童公園

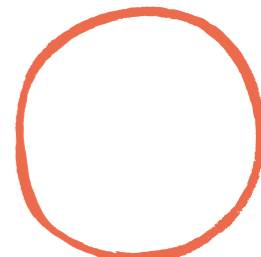
文 = 高木良枝

ワールド・モニュメント財団からの支援 (第2期)

ふうらいぼう

町家美術館 風雷房 誕生！

平成24年2月より、当センターが特定非営利活動法人京町家再生研究会と協働している「京町家再生プロジェクト (第2期)」に対し、米国のワールド・モニュメント財団 (World Monuments Fund : WMF) から127,200ドルの支援を受け、京町家の修復や普及・啓発プログラムに取り組んでいます。



玄関の猫が目印

町家美術館 風雷房

プロジェクトの対象町家は修復され、平成24年5月25日に芸術家の木田安彦さんが運営する町家美術館「風雷房」として開館し、春と秋に期間を限って公開中。木田さんの木版画やスケッチも展示され、自宅に招かれて掛軸や絵を楽しむかのように、美術品を自然な光と美しい室礼の中で鑑賞することができます。平成24年9月21日～11月18日の金土日に「田中一光と木田安彦展」を開催予定。(住所 中京区泉正寺町 333)

屏風が展示された2階の座敷

大型町家の再生へ

第2期の企画では、WMFの支援の前提となる公的利用と公開を、第1期の釜座町家ちようすゑのような町会所ではなく、個人所有である京町家において、どう乗り越えるのが課題でした。平成23年7月、京町家再生研究会からの推薦で、昭和7年上棟の大型町家、当時は空き家であった中京区にある、村西邸 (風雷房) が候補に挙がりました。活用計画は町家美術館「風雷房」として美術を展示し、建物自体も価値が高いことから、公開のハードルは越えたものの、個人所有と持続的保存が課題となりました。しかし、大型町家の再生への可能性と、この町家を何とか残したいとの木田さんの熱い思いに、WMFも一歩踏み込む形で支援を決断いただきました。修復費用の一部と町家の賃料、維持と運営は木田さんをご負担し、大型町家の活用に大きく貢献されています。加えて、平成24年5月、景観重要建造物^{*}、歴史的風致形成建造物^{*}に指定され、建物の価値が認められたこともプロジェクトにとって追い風になりました。

^{*} 地域の個性ある景観づくりや、良好な歴史的環境の維持及び向上のためにその保全を図ることを目的として建物を指定する諸制度。

支援額 総額127,200ドル
(約1,040万円)

- WMFの助成はフリーマン財団 (米国) とエドワード・スタジンスキー氏、アン・スタジンスキー氏の協力を得たもの。
- 助成支援額の内訳は、風雷房の修復に71,500ドル (約580万円)、京町家の普及・啓発プログラムに55,700ドル (約460万円)。

就任ご挨拶



京都市景観・まちづくりセンター
専務理事 寺田敏紀

都を取り囲む山々は、市民により手入れがなされ春夏秋冬美しい姿を見せ、社寺仏閣も美しく堂宇を並べている。旧市街地には、多くの京町家が美しく再生され、平成の京町家も立ち並び、表通りには魅力的な店舗や活気のある事務所・工房が軒を連ね、町中の細街路は車に替わって多くの市民や国内外の観光客で賑わっている。郊外では、その地域で育った子供達が故郷と呼ぶにふさわしい個性的で魅力的な市街地が広がる中で、世界に誇る京都の世界企業が立地している。

大人たちは、町衆として地域のことに関心を配り、お年寄りも元気で祭を盛り上げ、子供達も近所のオッチャンに怒られながら元気を通りで遊んでいる。

本年6月に専務理事に就任しました寺田です。近未来の京都のまちを描いてみました。皆様と共に美しい京都の実現に向けて取り組めますので、よろしくお祈りいたします。



まちづくりチョビット推進室

京都三条ラジオ・カフェ (FM79.7MHz)



左からパーソナリティの絹川雅則氏、6月ゲストの関本徹生氏（京都造形芸術大学教授）・櫻澤克征氏（同大学四回生）

「まちづくりチョビット推進室」の放送枠を年6回お借りして、「まちづくり」をテーマに番組を配信しています。毎回ゲストをお招きし、それぞれのまちの“今”を語っていただきます！

番組紹介

6月放送分 あなたの町の愛し方 - 我が町の自信と誇り in 東山 -
ゲスト 関本徹生氏（京都造形芸術大学教授）ほか

8月放送分 「西陣の朝市 - マルシェー」ってご存じですか？
ゲスト 粟辻順恭氏（南粟辻アートディレクションルーム代表）ほか

まちづくりチョビット推進室

第3・4土曜日 午後 3:30～午後 4:00（本放送）

第3・4日曜日 午前 10:30～午前 11:00（再放送）

過去の放送分は、インターネットでもお楽しみいただけます。

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/suisin.html>



私と京都

京都市建築協定連絡協議会 会長
桂坂地区建築協定協議会 会長
桑原尚史



京都の京都ではなく、
日本の京都だ！

平成19年の京都市・新景観政策スタート時に、その目的として、「京都市が都市間競争に勝ち抜くため」と謳われていたが、それはその通りであるのだが、もっとスケールを大きく考えるべきだと思う。

小学校でも英語教育が盛んになってきている。英語を幼いうちから習うということ自体は決して悪いことだとは思わないが、何か欠けているように思う。なぜ英語を習うのかを一言で表わしてしまえば、国際人を育てるとのことだが、その前に日本人であるということ忘れてはならない。日本人としての心、アイデンティティをしっかりと持たずに国際人になろうとすれば、日本人でもない、アメリカ人でもない、無国籍な国際人になってしまう。「国」なくして国際人はありえない。日本の近年の社会状況や事件を見ていると、ここは本当に日本なのかと思うことがある。グローバリゼーションが進む平成の時代であればこそ、シッカリと日本人の心を取り戻しておくことが重要であると思う。

日本人の底流に流れる心、文化、伝統の源は、ここ京都である。京都を守ることが、日本人の心、文化、繊細さ、そして国際化に耐えうるアイデンティティを守り、あるいは、よみがえらせ再認識させるのに、貢献することができるように思う。

景観まちづくりにおいても、日本の京都だということ強く意識すべきだ。京都のまち並みを守ることが、日本人のアイデンティティを守ることにもつながる。心技一体という言葉がある。「技」を「景観やまち並み」とすれば、その精神や市民の心意気というもの「心」であり、どちらが欠けていても良いまちづくりはできないし、共に良ければ相乗効果で益々良くなる。せっかく、縁あって同時代にこの京都に住んだのだから、このニュースレターを読む方々が未来に向かって、まちづくりの輪を広げていけば、自ずと、日本人の背骨を保つことに貢献できるのではないだろうか。また、都市間競争を勝ち抜くにしても、京都は、東京や横浜といった巨大都市と同じ路線では、所詮、かなわない。下手に真似をすればするほど、中途半端な一地方都市に成り下がってしまう。いつまでも、「みやこ」である誇りを保ってほしいと思う。

日本人の心、文化、繊細さ、そして国際化に耐えうるアイデンティティを守り、あるいは、よみがえらせ再認識させるのに、貢献することができるように思う。

景観まちづくりにおいても、日本の京都だということ強く意識すべきだ。京都のまち並みを守ることが、日本人のアイデンティティを守ることにもつながる。心技一体という言葉がある。「技」を「景観やまち並み」とすれば、その精神や市民の心意気というもの「心」であり、どちらが欠けていても良いまちづくりはできないし、共に良ければ相乗効果で益々良くなる。せっかく、縁あって同時代にこの京都に住んだのだから、このニュースレターを読む方々が未来に向かって、まちづくりの輪を広げていけば、自ずと、日本人の背骨を保つことに貢献できるのではないだろうか。また、都市間競争を勝ち抜くにしても、京都は、東京や横浜といった巨大都市と同じ路線では、所詮、かなわない。下手に真似をすればするほど、中途半端な一地方都市に成り下がってしまう。いつまでも、「みやこ」である誇りを保ってほしいと思う。

賛助団体

株式会社 ゼロ・コーポレーション / ローム株式会社 / 株式会社 地域計画建築研究所 / 都市居住推進研究会 / 一般社団法人 京都府建築士事務所協会 / 株式会社 ジェイアール西日本伊勢丹 / 大阪ガス株式会社 / 株式会社 フラットエージェンシー / 京都駅ビル開発株式会社 / NPO 法人マンションセンター京都 / NPO 法人京滋マンション管理対策協議会 / 平安建材株式会社 / 修徳自治連合会 / 有隣自治連合会 / 株式会社八清 / NPO 法人 古材文化の会 / 公益社団法人 京都市観光協会 / ミサワホーム近畿株式会社 / 一般社団法人相続相談センター / 立命館大学歴史都市防災センター / 六原学区自治連合会 / 一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会 / 京町家居住支援者会議 / 松ヶ崎学区自治連合会 / 桂坂学区自治連合会 / 株式会社マーブル / 京都市建築協定連絡協議会 / 『京ぐらし』ネットワーク他